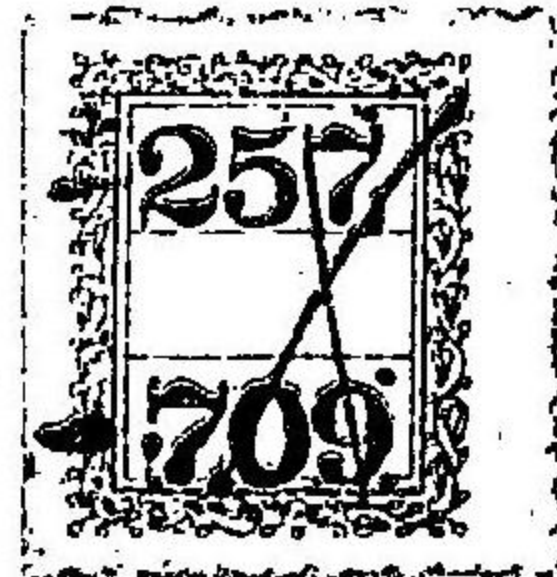


特 72

67

薩摩琵琶歌

赤穂義士 上



301609-001-5

特72-67

赤穂義士 上(薩摩琵琶歌)

薩摩琵琶歌会

M41.10

CEJ-0001

曲譜

大かん 大聲に吟ずべし

中かん 結末の句にのみ節を用い

きり 大聲にて歌ひ廻す

吟替り 悲哀の聲

崩れ 緩急の度を失ふ勿れ

地の音

聲を上る

聲を下る

聲の終を長く引き下る

聲の終を長く引き上る

聲の終を引き震はせ下る

聲の終を引き震はせ上る

注意

薩摩琵琶歌獨奏の便に供せんとし其曲譜の大要を
如上符號を以て明示せり、此歌は他の歌曲と異な
り大體の定節即ち「大かん」「中かん」「きり」「吟替
り」「崩れ」等は動かすべからずと雖も、其他に至つ
ては各自曲節を異にする個所なきにあらず、畢竟
琵琶歌は山形に歌ふべく、其妙趣は本書を懐にし
以て先輩の獨奏を耳にし攻究せば自から獨奏容易
なるべしなり。

薩摩琵琶歌會

特 57

赤穂義士 上巻

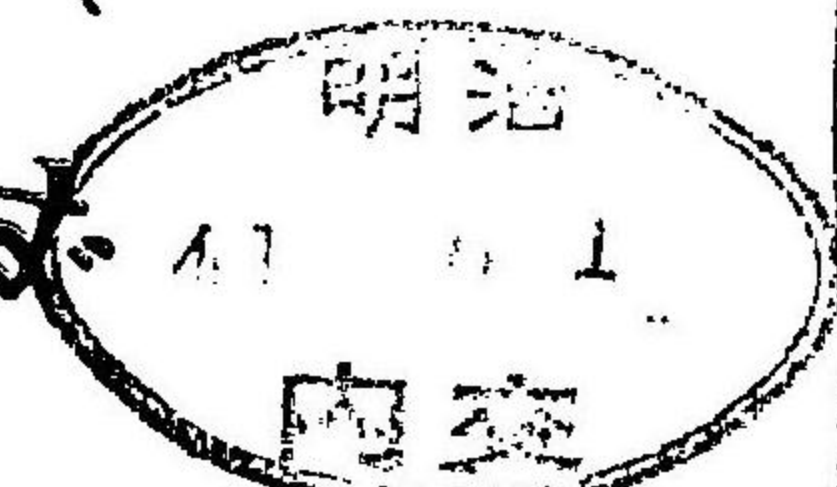
地
忍び難くは得に又も義かきとせり
トモ テン イタミ

赤穂四十七人は、元禄十五年節、十四日の夜、決
アカホ デン ロク ネン シ ハス ヨ

寺に五更の鐘を相聞て、兩國橋に勢揃い本所
ゴコウ カネ アイヅ リヤウゴクバシ

相生町に、吉原のな敷へお相寄す。追平撥平二
アイオイテウ キラ ヤシキ オシヨ

手は分れ、矢は素門の方には、太刀内藏の介良雄を
テ ワカ オモテモンカタ オホイシン



大將一ノ原物大衛ノ
少衛尉大衛ノ守二
タイシヨウ
ハラソウウエモン
トミノモリスケウエモンヲ

四人又衆ノオにはス主授良金由田忠左衛門
マタウラモン カタ オホイシナカラ ヨシカネ ヨシタチウザエモン

小野寺十内が初よりア其勢二十三ノ火事装
オノテラヂウナイ ハジ ソノゼイ オノオノクワジ シヨウ

半に身が固めて打つ時ノ積雪暇は没一寒
ツグ ミ カタ ウチムカ トキ セキセツスネ ボツ カン

園廣茂が一ノ百十日の月食の如く晴れ打ち
ウツシハ サ シカ シキヒル ゴト

ノ前立羽織の令即ハ龍平暇は腹巻の金物赫々
マハダチ ハオリ アヒジルシ コ テ スネアテ ハラマキ カナモノ カクク

一ノ太夫が一室ノ女一ノ後ニ何事も無事
ホシ ゴト コノ サマキチバエミツノゾ

今宵の金銀
コヨイ ヤリミツシ

都真の事
ミヤロ トロ

母の事
ハヂ

川崎の事
ミユ ウツ

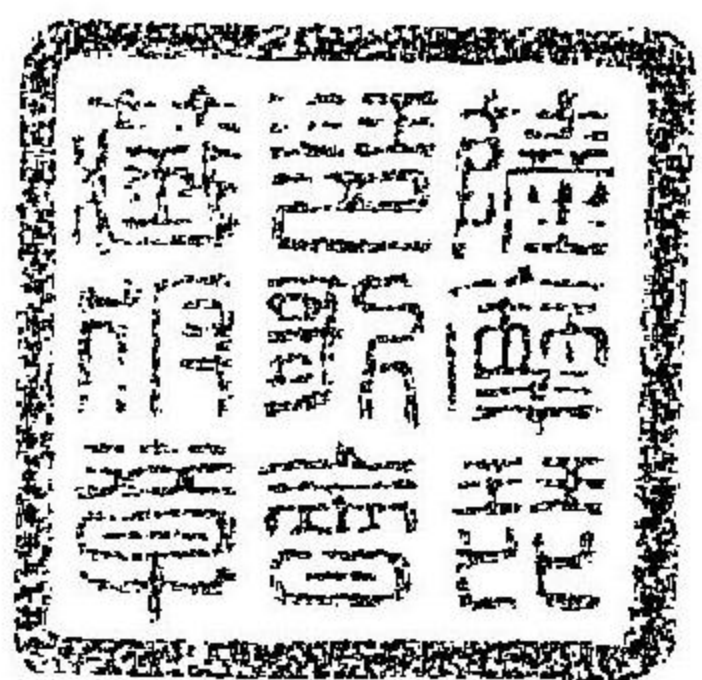
川崎の事
カキ ヲシキ オシイ

257
709

薩摩琵琶歌書

白	辨	本	毒	櫻	威	小	常	那	城	石	元	川	臺	錦
虎	内	能	優		海		陸	須		童		中	灣	の
隊	侍	寺	頭	狩	衛	督	丸	市	山	丸	冠	島	入	旗
郵	定	(以下續刊)	送松	會	能	吹	赤	小	吉	廣	兒	王	國	太
税金	價		別	我	本	雪	穂	敦	野	瀬	島	昭	の	田
二錢	金		合	兄	籠	の	義	盛	落	中	高	昭	御	道
	六錢		本	弟	城	敵	士	上	上	佐	德	君	柱	灌
			一				下	下	下					

(すま 許 を 載 轉 譜 曲)



明治四十一年九月十五日印刷
明治四十一年十月一日發行

著者 薩摩琵琶歌會

發行所 朝野文三郎
東京市神田區橋本町二丁目五番地

發行所 朝野書店
東京市神田區橋本町二丁目五番地
(振替口座一六七五)

特約販賣所 東京○林平○文林堂○榊原
○大 洋 堂○大 川 屋

◎◎賣捌所は全國到る處の書店雜誌店にあり◎◎

十に餘りよすたる女老殿原に寄りてせす。
アマ
ワカトノ
オト
ホコ
サテ
ケナゲ
ロマジン
フル
マヒ
カシ
カシ

